

◇微生物検査◇

【顕微鏡検査】

患者さんから採取した材料(喀痰・尿・糞便など)をスライドガラスに塗布して、グラム染色を行います。染色後の標本を顕微鏡で観察し、細菌の有無や菌量、形態などを調べます。

【培養検査】

培地とよばれる寒天状のものに検体を接種し、一晚培養します。細菌がいれば集落を形成します。菌によっては発育に少々時間がかかるものもあります。

【同定検査】

発育してきた細菌が何であるか(名前を付ける)を調べます。

【薬剤感受性検査】

病気の原因だと思われる細菌(原因菌)が発育してきた場合には、どの薬剤が有効であるかを測定し、また処方された薬の効果の有無を調べます。

その他、感染防止対策関連の一環として、院内連絡網を活用した、感染対策上重要な細菌の検出情報を随時行っています。また院内感染対策チーム(ICT)の一員として毎週院内ラウンドを実施し、院内感染防止活動にも取り組んでいます。

